



### 17 広告美術工

# 美しく大胆 筆描きの技

三ヶ田房 製作所 (浜松市西区)



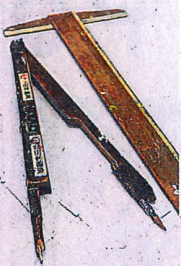
看板素材の切り出しからデザ  
イン考案、製作までを一貫して  
行っている。  
近年はハネル印刷による看板  
製造が増え、「手書きの仕事は  
1割にも満たない」。一方で  
建物の壁面などに直接ペイント

ドンナトコ  
コナトコ

を施すといった、人間の手にし  
か行えない大仕事が無い込むこ  
ともある。  
建物内には、高所作業で使う  
ための、見上げるほど高い脚立  
がずらりと並んでいる。



広告看板を製作中の上村浩太さん。工場には手描きのイラストや文字が踊る看板が並ぶ



コレがなつち  
デザイン製作器具  
文字間隔をそろえたり、ゆが  
みのない直線を引いたり、美  
しい看板作りには欠かせない道

具たち。両手で扱ったため、文房  
具などと比べるとはるかに巨大  
なサイズに驚く。使い込まれた  
持ち手には汗が染み込み、味わ  
い深い表情に変わっている。

青い塗料を浸した筆先を、ためらいなく真  
つさらな看板に乗せた。広告製作・三ヶ田房  
(浜松市中区)の上村浩太社長(47)。こつこ  
つとした太い指、大胆な筆運び。それらに似  
つかわしくない、端正な文字が次々と描き上  
げられていく。「美しい看板を、1時間で仕  
上げる。それがこの仕事」

画材を切断する工具が無造作に並び、体格  
の良い広告美術工が行き交う製作所(同市西  
区)は、アトリエではなく「工場」と呼ぶの  
がふさわしい。父計介さん(70)の英才教育  
により、この半世紀以上続く老舗を継ぐのは  
自然な流れだった。幼少期から絵画教室に通  
い、店の手伝いに明け暮れた中高時代を経て、  
美術大学では油絵や彫刻を学んだ。

下描きはプロジェクターで見本を看板に投  
影し、複雑な書体の文字やイラストを、鉛筆  
で丁寧に描き写す。灼熱の投影光を全身で  
浴びながらの作業で、ポロシャツにはうっす  
ら汗がにじむが、顔色一つ変えない。  
本番で心掛けるのは、失敗を恐れず筆を動か  
すこと。後は「長年の経験と勘」に身を任  
せる。凸凹のないなめらかなアル(曲線)  
が美しさの決め手だ。完成した看板は、よく  
見れば線の太さや文字間がふぞろいで、色む  
らもある。コンピューターによる「完璧」な  
看板にはない、柔和であたたかいムードをま  
とむ。

8人の従業員を抱える同社で、筆描きので  
きるのは自分だけ。1960〜70年代に手描  
きの看板であふれていた製作所は、印刷製造  
中心へと移り変わった。「時代の流れに付い  
ていくのも必要だから」。大量に余った画材  
を見て、寂しそうに言う。  
コンピューターグラフィックスや印刷技術  
を駆使した、見た目に派手な看板がまたに  
あふれるようになった。だが素材や形式が変  
わるにつれ、看板の本質は変わらないと考える。  
「大人も子供も、ひと目ですつと分かること  
が一番大事」。筆を握る手のぬくもりを乗せ  
て、大切な情報を伝え続けるしていく。

(文・本橋涼介、写真・杉山英一)

スマホがなくても  
写真が動く  
ココAR2  
新アプリのダウンロードはこちら。  
PictureARは使用できません

「ソノ仕事×コノ絶景」  
は第1、3、5月曜日に  
掲載します。